

(19) 日本国特許庁 (JP)

(12) 公開特許公報 (A)

(11) 特許出願公開番号

特開2000-358088

(P 2000-358088A)

(43) 公開日 平成12年12月26日 (2000. 12. 26)

(51) Int. Cl. 識別記号 F I テーマコード (参考)
H04M 1/00 H04M 1/00 R
A61B 5/05 A61B 5/05 B
H04M 1/02 H04M 1/02 C
C

審査請求 未請求 請求項の数 3・書面 (全 6 頁)

(21) 出願番号 特願平11-202087

(71) 出願人 598027870

株式会社光洋

東京都文京区本郷3丁目32番7号

(22) 出願日 平成11年6月14日(1999.6.14)

(72) 発明者: 藤原 源一

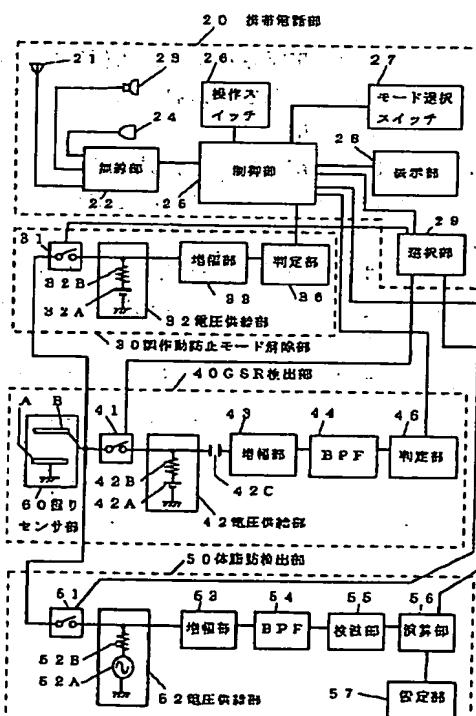
東京都文京区本郷3丁目32番7号 株式会
社光洋内

(54) 【発明の名称】マルチバーバス携帯電話機

(57) 【要約】

【課題】 携帯電話の本来機能に加えて人の精神状態を示すGSRや人体の肥満度を示す体脂肪値などの生体情報を得る機能の設定を可能としたマルチバーパス携帯電話機を提供することを目的とする。

【解決手段】 本発明のマルチバーパス携帯電話機は、携帯電話機において、予め定めた位置に設けられた握りセンサ部60を手で握ることにより、前記携帯電話機の操作スイッチ26の誤作動防止のために設定された誤作動防止モード30を解除する誤作動防止モード解除部と、前記握りセンサ部60を手で握ることにより、前記握りセンサ部60を手で握った人の生体情報を検出する検出部40とを備え、モード選択スイッチ27により前記誤作動防止モードが設定されたときには、前記握りセンサ部60を手で握ることにより前記誤作動防止モードが解除され、前記モード選択スイッチ27により前記生体情報を検出するモードが設定されたときには、前記握りセンサ部60を手で握ることにより前記生体情報が検出されるようにした。



BEST AVAILABLE COPY

【特許請求の範囲】

【請求項1】 携帯電話機において、予め定めた位置に設けられた握りセンサ部を手で握ることにより、前記携帯電話機の操作スイッチの誤作動防止のために設定された誤作動防止モードを解除する誤作動防止モード解除部と、前記握りセンサ部を手で握ることにより、前記握りセンサ部を手で握った人の生体情報を検出する検出部とを備え、モード選択スイッチにより前記誤作動防止モードが設定されたときには、前記握りセンサ部を手で握ることにより前記誤作動モードが解除され、前記モード選択スイッチにより前記生体情報を検出するモードが設定されたときには、前記握りセンサ部を手で握ることにより前記生体情報が検出されることを特徴とするマルチバーバス携帯電話機。

【請求項2】 前記生体情報は、人の精神状態を示すGSRおよびまたは人体の肥満状況を示す体脂肪値とし、前記握りセンサ部を手で握ることにより人体に流れる微小電流を検出して求めることを特徴とする請求項1に記載のマルチバーバス携帯電話機。

【請求項3】 前記握りセンサ部は、携帯電話機本体の左右側面に設けられた電位の与えられる一对の電極よりなることを特徴とする請求項1または請求項2に記載のマルチバーバス携帯電話機。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】 本発明は、携帯電話機に関し、特に、携帯電話の本来機能に加えて人の精神状態を示すGSRや人体の肥満度を示す体脂肪値などの生体情報を得る機能の設定を可能としたマルチバーバス携帯電話機に関する。

【0002】

【従来の技術】 従来の携帯電話機には、着信待ち状態(電源ON)で鞄やバックなどに入れて持ち運びしているとき、鞄やバックなどに入れてある他の収納物と操作スイッチとが接触し携帯電話機が誤作動してしまうおそれがあり、これを防止するため誤作動防止機能を備えているものがある。

【0003】 図2は、誤作動防止機能を備えた従来技術の携帯電話機の正面図を示す。携帯電話機10に誤作動防止モードを設定するときには、操作スイッチ部15のモード選択スイッチ15Aを操作することにより誤作動防止モードを選択して行うことができ、携帯電話機10を手で握ることにより携帯電話機10の側面に設けられた一对のタッチセンサ11と手とが接触して、誤作動防止モードを解除することができる。

【0004】

【発明が解決しようとする課題】 しかしながら、従来の携帯電話機10には、次のような問題があった。

【0005】 上記したごとく従来の携帯電話機10ではモードスイッチ15Aを操作することにより、誤作動防

10

2

止モードなどのモードを設定することができるが、携帯電話機10は、当然、常に身の回りに置いたり所持して使用する機会が多いため、携帯電話機の本来機能に加えて日常生活上の機能も要求される傾向にある。

【0006】 この従来の携帯電話機10は、さらに小型化の傾向にあり、また、人よりの情報の入力は操作スイッチ部15やタッチセンサ11に限られるため、例えば、人の精神状態を示すGSRや人体の肥満度を示す体脂肪値などの生体情報を得る設定をしようとしてもセンサ類の設定スペースの余地もなく、こうした機能の設定は不可能と考えられていた。

【0007】 本発明は、上記に鑑みてなされたものであって、携帯電話の本来機能に加えて人の精神状態を示すGSRや人体の肥満度を示す体脂肪値などの生体情報を得る機能の設定を可能としたマルチバーバス携帯電話機を提供することを目的とする。

【0008】

【課題を解決するための手段】 そこで本発明のマルチバーバス携帯電話機は、携帯電話機において、予め定めた位置に設けられた握りセンサ部を手で握ることにより、前記携帯電話機の操作スイッチの誤作動防止のために設定された誤作動防止モードを解除する誤作動防止モード解除部と、前記握りセンサ部を手で握ることにより、前記握りセンサ部を手で握った人の生体情報を検出する検出部とを備え、モード選択スイッチにより前記誤作動防止モードが設定されたときには、前記握りセンサ部を手で握ることにより前記誤作動モードが解除され、前記モード選択スイッチにより前記生体情報を検出するモードが設定されたときには、前記握りセンサ部を手で握ることにより前記生体情報が検出されることを特徴とする。

【0009】 また、前記生体情報は、人の精神状態を示すGSRおよびまたは人体の肥満状況を示す体脂肪値とし、前記握りセンサ部を手で握ることにより人体に流れる微小電流を検出して求めることを特徴とする。

【0010】 さらに、前記握りセンサ部は、携帯電話機本体の左右側面に設けられた電位の与えられる一对の電極よりなることを特徴とする。

【0011】

【0012】 図1は、本発明に関するマルチバーバス携帯電話機の全体構造を説明するための側面図を示す。マルチバーバス携帯電話機は、携帯電話部20と、誤作動防止モード解除部30と、生体情報のGSRを検出するGSR検出部40と、生体情報の体脂肪値を検出する体脂肪検出部50とで構成される。

【0013】 携帯電話部20は、アンテナ21と、無線部22と、スピーカ23と、マイク24と、制御部25と、操作スイッチ26と、モード選択スイッチ27と、

50

表示部28と、選択部29とで構成され、制御部25は操作スイッチ26よりの入力信号により無線部22に制御信号を出し、無線部22ではスピーカ23とマイク24とによる通話をアンテナ21を介し送受信する。モード選択スイッチ27により、誤作動防止モード解除部30と、GSR検出部40と、体脂肪検出部50のモード選択が可能である。モード選択スイッチ27のモード選択により、選択部29が誤作動防止モード解除部30と、GSR検出部40と、体脂肪検出部50を選択作動させ、選択したものよりの出力信号を制御部25に入力する。表示部28は、制御部25よりの各種情報信号を表示する。

【0014】誤作動防止モード解除部30は、本発明に関するマルチバーパス携帯電話機を手で握ることにより人体の微小電流を検出し、操作スイッチ26の誤作動防止のためにモード選択スイッチ27により設定された誤作動防止モードを解除するもので、本発明に関するマルチバーパス携帯電話機の側面部に設けた一対の電極A、Bを有する握りセンサ部60と、直流電源32Aと高抵抗32Bとが直列接続されている握りセンサ部60への直流の電圧供給部32と、スイッチ部31と電圧供給部32に接続した増幅部33と、判定部36とで構成されている。

【0015】誤作動防止モードがモード選択スイッチ27により設定され選択部29によりスイッチ部31がONになっているとき、マルチバーパス携帯電話機本体の握りセンサ部60を手で握ると人体と握りセンサ部60とが接触して握りセンサ部60の間を電圧供給部32により供給された電圧により微小電流が流れる。この微小電流による電圧を増幅部33は増幅して判定部36に出力する。判定部36は、入力したこの信号のレベルにより本体が握られていることを判定し、判定結果を制御部25に出力して誤作動モードは解除される。

【0016】従って、着信待ち状態（電源ON）で鞄やバックなどに入れて持ち運びしているとき、鞄やバックなどに入れてある他の収納物と操作スイッチ26とが接触し携帯電話機が誤作動してしまうことを防止することができる。

【0017】人間は平常時と感動したり驚いたりした緊張時とでは皮膚抵抗値が異なり、緊張時には一時的に皮膚抵抗値が変動する。こうした精神状況の変動はGSR（Galvanic Skin Response）信号として検出することができる。

【0018】GSR検出部40は、GSR信号を検出するもので、握りセンサ部60と、直流電源42Aと高抵抗42Bとが直列接続されている握りセンサ部60への直流の電圧供給部42と、コンデンサ42Cを介しスイッチ部41と電圧供給部42に接続した増幅部43と、BPF（バンドパスフィルタ）44と、判定部46とで構成されている。直流電源42Aは、代わりに交流電源

を使用するようにすることもできる。

【0019】GSR検出モードがモード選択スイッチ27により設定され選択部29によりスイッチ部41がONになっているとき、マルチバーパス携帯電話機本体の握りセンサ部60を手で握ると人体と握りセンサ部60とが接触して握りセンサ部60の間を電圧供給部42により供給された電圧により微小電流が流れるが、握っている人の精神状況が変動したときには皮膚抵抗値が一時的に変わり握りセンサ部60の間の微小電流が変動する。

【0020】この微小電流の変動はGSR信号としてコンデンサ42Cを介して増幅部43に入力される。この入力信号は増幅部43で増幅されBPF44でノイズ成分が除去され判定部46に入力する。判定部46は、入力したBPF44よりの信号レベルにより精神状況のレベルを判定し、判定結果を制御部25に出力して制御部25により表示部28に精神状況のレベルが表示される。

【0021】従って、こうした精神状況のレベルの表示は、例えば、本体を握っている人に他の人が質問しウソ発見の遊技としても使用するようにすることができる。

【0022】体脂肪検出部50は、肥満状況を示す体脂肪値を検出するもので、握りセンサ部60と、交流電源52Aと高抵抗52Bとが直列接続されている握りセンサ部60への交流の電圧供給部52と、スイッチ部51と電圧供給部52に接続した増幅部53と、BPF54と、検波部55と、演算部56と、設定部57とで構成されている。交流電源52Aは、代わりに直流電源を使用するようにすることもできる。

【0023】体脂肪検出モードがモード選択スイッチ27により設定され選択部29によりスイッチ部51がONになっているとき、マルチバーパス携帯電話機本体の左右に設けられた握りセンサ部60の電極A、Bをそれぞれ左右の手で押さえて握ると握りセンサ部60の間を電圧供給部52により供給された交流電圧により微小電流が流れる。

【0024】この微小電流は体脂肪信号として増幅部53に入力される。この入力信号は増幅部53で増幅されBPF54でノイズ成分が除去され検波部55に入力され検波されアナログ信号となる。演算部56は、入力したこのアナログ信号の値と、予め操作スイッチ26により設定部57に設定された本体を握っている人の体重と身長の値より体脂肪値を演算し、演算結果を制御部25に出力して制御部25により表示部28に体脂肪値が表示される。体脂肪値の表示は、パーセントで表示することも段階レベルで表示することもできる。

【0025】従って、こうした体脂肪値の表示は、簡易的な体脂肪計として日常の健康管理に使用することも、お互いに計測して遊戯的に使用するようにすることもできる。

【0026】なお、握りセンサ部60は、本体の側面部に設けた一対の電極A、Bについて述べたが、これに限定されることなく電極を複数個設けるようにすることもできる。

【0027】以上述べたごとく、上記実施例は、本体の側面部に設けた一対の電極を有する握りセンサ部60により、携帯電話機本体のスペースが限られても、操作スイッチの誤作動防止のために設定された誤作動防止モードの解除や、人の精神状態を示すGSRの検出や、人体の肥満状況を示す体脂肪値の検出を容易に行うことができ、携帯電話の本来機能に加えてこうした生体情報を得る機能の設定を簡潔構造で可能とすることができる。

【0028】

【発明の効果】本発明のマルチバーバス携帯電話機は、携帯電話機において、予め定めた位置に設けられた握りセンサ部を手で握ることにより、前記携帯電話機の操作スイッチの誤作動防止のために設定された誤作動防止モードを解除する誤作動防止モード解除部と、前記握りセンサ部を手で握ることにより、前記握りセンサ部を手で握った人の生体情報を検出する検出部とを備え、モード選択スイッチにより前記誤作動防止モードが設定されたときには、前記握りセンサ部を手で握ることにより前記誤作動防止モードが解除され、前記モード選択スイッチにより前記生体情報を検出するモードが設定されたときには、前記握りセンサ部を手で握ることにより前記生体情報が検出されるため、携帯電話の本来機能に加えて人の精神状態を示すGSRや人体の肥満度を示す体脂肪値などの生体情報を得る機能の設定を簡潔構造で容易に行うことができた。

【0029】また、前記生体情報は、人の精神状態を示すGSRおよびまたは人体の肥満状況を示す体脂肪値とし、前記握りセンサ部を手で握ることにより人体に流れ微小電流を検出して求めるため、日常生活に密着した生体情報を容易に得ることができるとともに、科学的な

遊技としても使用するようにすることができる。

【0030】さらに、前記握りセンサ部は、携帯電話機本体の左右側面に設けられた電位の与えられる一対の電極よりなるため、携帯電話機本体のスペースが限られていても、一つの握りセンサ部より各種の生体情報を得ることができる。

【図面の簡単な説明】

【図1】本発明に関するマルチバーバス携帯電話機の全体構造を説明するための側面図を示す。

【図2】誤作動防止機能を備えた従来技術の携帯電話機の正面図を示す。

【符号の説明】

10 10 携帯電話機

11 11 タッチセンサ

15、27 15、27 操作スイッチ部

15A 15A モード選択スイッチ

20 20 携帯電話部

22 22 無線部

25 25 制御部

25 25 操作スイッチ

28 28 表示部

29 29 選択部

30 30 誤作動防止モード解除部

31、41、51 31、41、51 スイッチ部

32、42、52 32、42、52 電圧供給部

33、43、53 33、43、53 増幅部

36、46 36、46 判定部

40 40 GSR検出部

44、54 44、54 BPF

30 50 50 体脂肪検出部

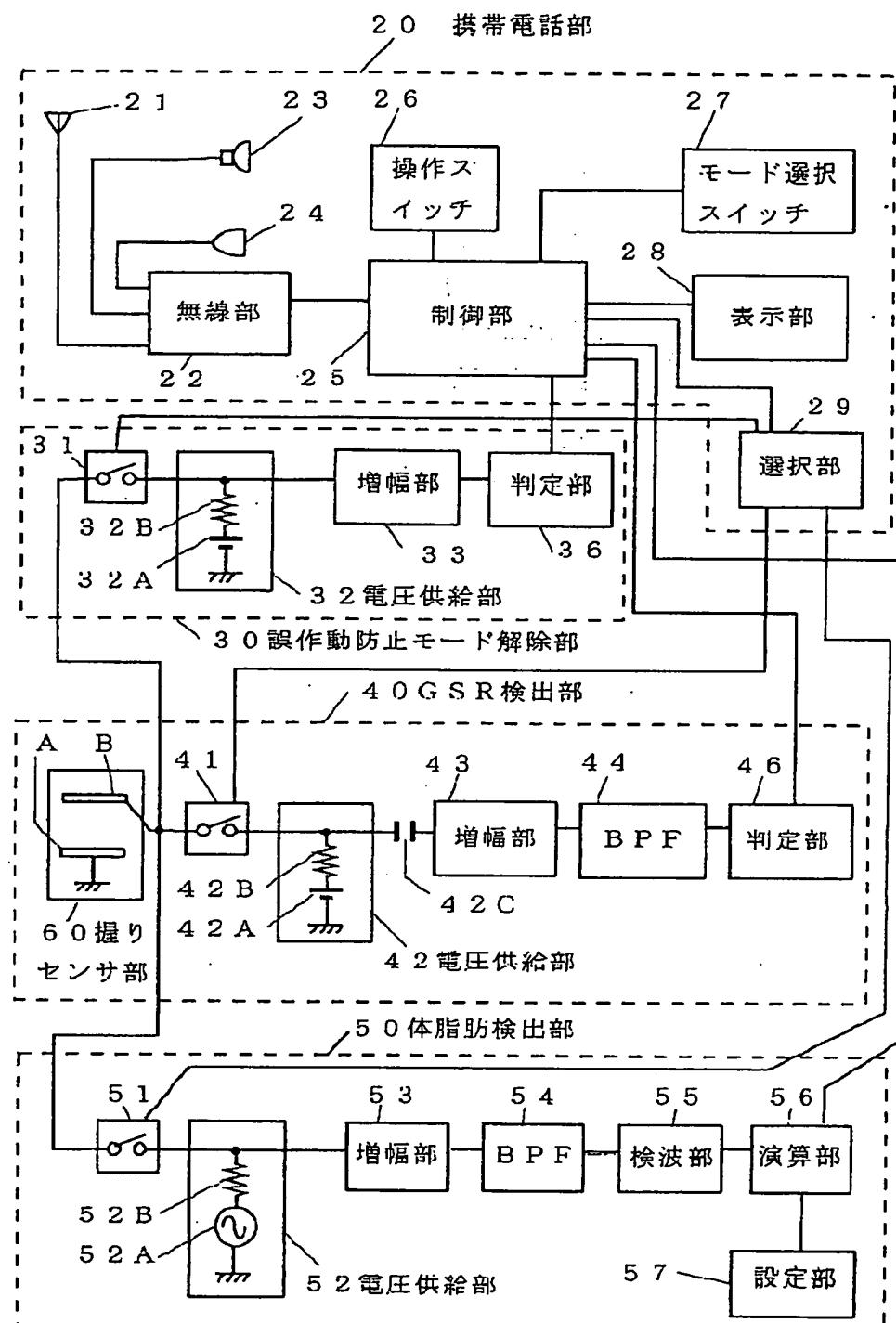
55 55 検波部

56 56 演算部

57 57 設定部

60 60 握りセンサ部

【図1】



【図 2】

